

糸満市市民活動支援センター 2014 年度 事業報告書



▲2015 年 2 月 15 日 糸満まちづくりカフェ 2015

管理・運営
特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

2015 年 3 月

はじめに

1995年の阪神淡路大震災での市民の活動が契機となり生まれたNPO法が、施行16年を迎え、その後の法改正や新寄付税制が整備されつつあります。一方で、認定NPO法人制度に関する税制優遇措置を削減させるような動きもあり、市民・NPOがより活動しやすい環境整備について市民・議員を超えての議論と行動が求められています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災から4年が経過しましたが、東北の被災地における復興の道のりについて、引き続き多くの市民やNPOが生活再建・復興に尽力しています。

こうした中、糸満市において2011年10月29日、糸満南小学校跡地にオープンした「糸満市市民活動支援センター」も糸満市中央市場に拠点を移し、3年度を終えました。

2011年度は最低限の機能整備と周知を行い、2012年度にはテーマ型座談会の開発や「市民提案型まちづくり補助金事業」の事務局を担当、2013年度には、初の「糸満まちづくりカフェ」の実施と「農村地域再生発見事業」の大里地区でのキックオフなどに取り組んできました。

センター運営4年目となる2014年度は、2014-2016年度の3ヵ年契約での初年度の運営となり、地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施、「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金～より開かれ、育ち合う～」の運営、「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ～異分野・異業種のネットワーク化～」の開催、糸満市地域おこし協力隊と連携した農村における地域自治活動を育てる「農村地域再生発見事業」を中心に取り組みました。

この4年を通じて、市民活動支援センターの「周知」と「信頼」が少しずつ広がり、人口7万人の糸満市における市民活動支援の柱となる取組みが構築されつつあると感じています。

今後は、構築してきた市民活動支援の取組みを強化しつつ、より地域に目を向けた地域支援施策の提案や糸満市における中間支援の体制強化に向けて取り組んでまいります。

糸満市市民活動支援センター
(管理運営/NPO法人まちなか研究所わくわく)
センター長 宮道 喜一

目次

はじめに

目次

第1章	2014年度総括と市民活動をとりまく社会環境	1
1-1	2014年度事業の総括	
1-2	糸満市をとりまく地域環境と市民活動環境	
1-3	2014年度 市民活動をとりまく社会環境をふりかえる	
第2章	ハイライト	13
2-1	数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年	
2-2	糸満市市民活動支援センターに関する出来事	
2-3	糸満市市民活動支援センター 事業トピックス	
(1)	市民提案型まちづくり事業の企画推進	
(2)	市民活動講座の開催	
(2)-1	市民活動講座（補助金申請書書き方）の開催	
(2)-2	市民活動講座（会計）の開催	
(3)	まちづくりカフェの開催	
(4)	テーマ型座談会の開催	
(4)-1	テーマ型座談会（資源循環）の開催	
(4)-2	テーマ型座談会（地域自治）の開催	
(5)	市民活動相談	
(5)-1	市民活動相談	
(5)-2	専門家による相談	
(6)	市民活動の見える化・情報発信	
(6)-1	広報紙「日々是好日」の発行	
(6)-2	ブログで情報発信	
(6)-3	市民活動便利帳「iいとまんページ」の作成	
(7)	資源循環研究会	
(8)	農村地域再生発見事業	
2-4	利用実態	
	糸満市市民活動支援センター利用統計	
2-5	フォトギャラリー2014	
第3章	収支概要	35
第4章	運営について	37
4-1	糸満市市民活動支援センター 事業推進体制	
4-2	市合同月例ミーティング&スタッフミーティング	
	2014年度 糸満市市民活動支援センター事業スケジュール	
	2014年度 糸満市市民活動支援センター利用統計	

添付資料

これまで3年と年表とセンター機能、事業評価シート、メディア掲載記事、広報紙など

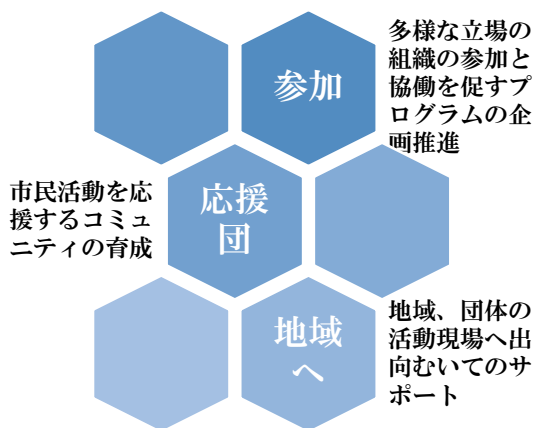
第 1 章 2014 年度総括と 市民活動をとりまく社会環境

■3カ年目標（2014-2016）

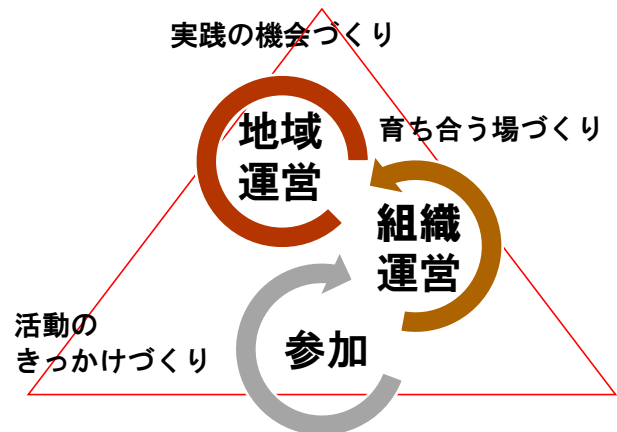
人と活動が 交じり合う「まちづくりカフェ」と
育ち合う「市民提案型まちづくり事業」への
住民参加から協働運営へ
「人」や「資金」の資源が循環するしくみづくり

■センター運営の3つの視点

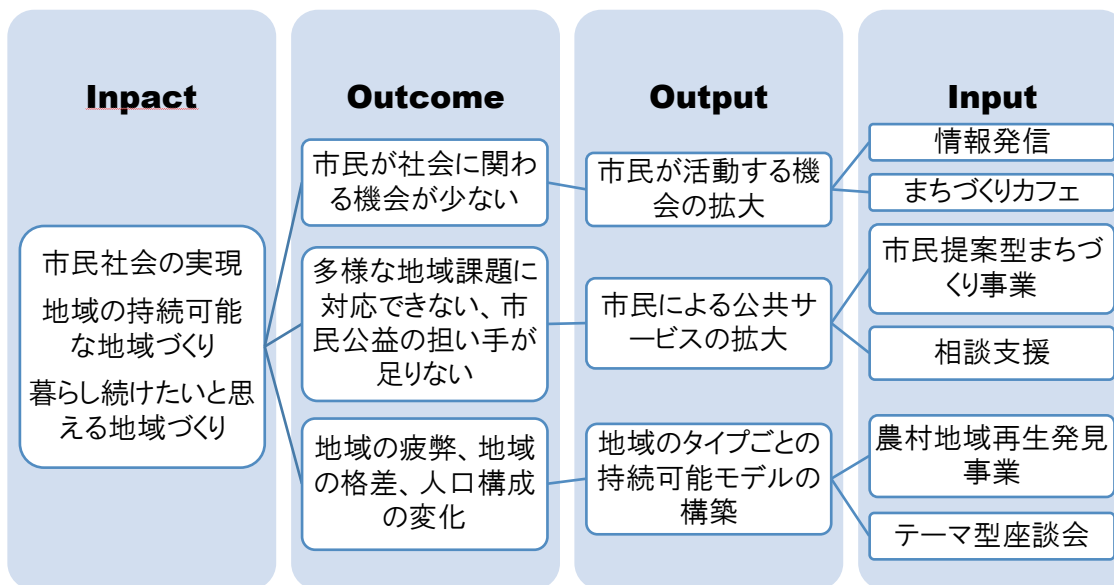
～市民、地域とともに歩む～



■事業を展開する3つのしかけ



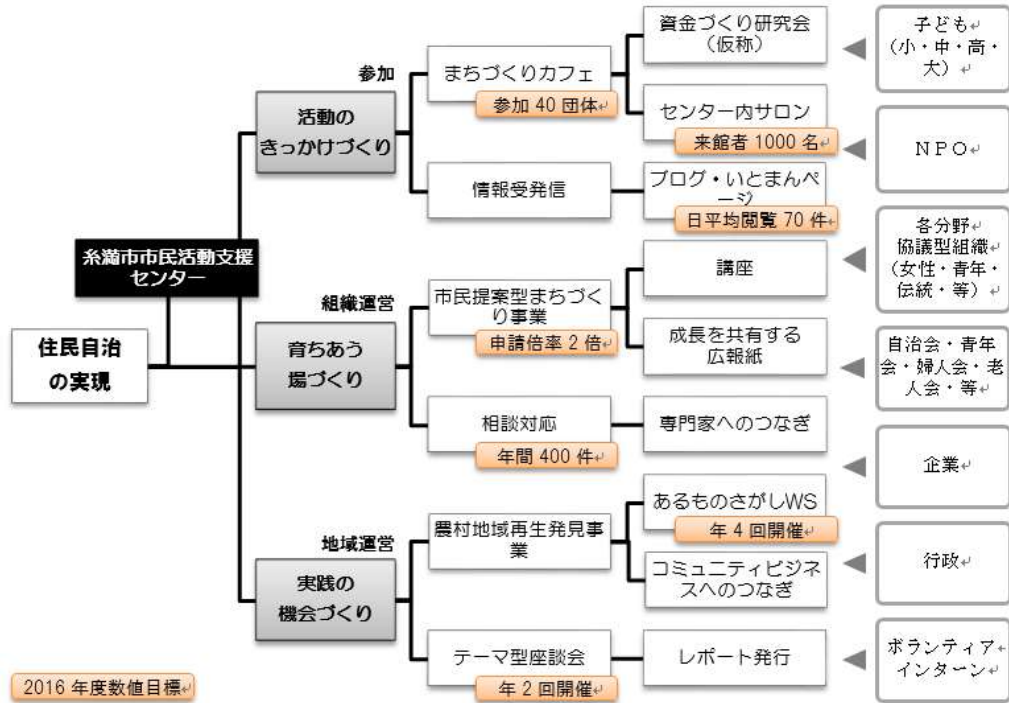
■目指す成果指標



「広げる」 → 「深める」 2014

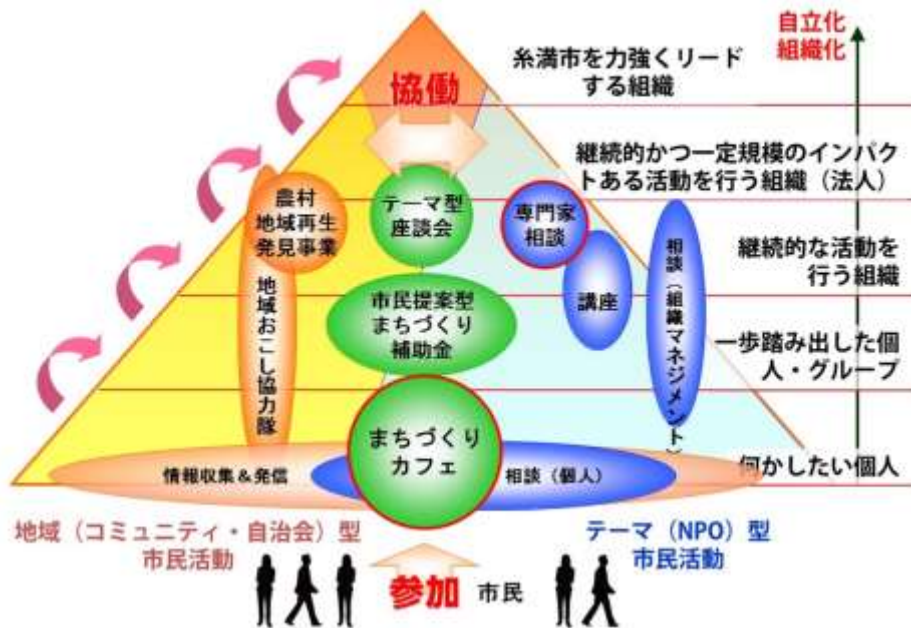
2014.2.16 糸満まちづくりカフェ初開催（会場：糸満市社会福祉センター）

■目標に向けた各事業の位置づけ（2014年度島当初）



■活動の成長段階におけるセンター事業のポジショニング

協働のまちづくりの環境整備 = 市民力・地域力アップ



1-1. 2014年度事業の総括

■地域の課題に向き合い、解決と協働のきっかけとなる「テーマ型座談会」の実施

2014-2016 提案	
ねらい	地域の課題の共有／解決のためのアイデア／異分野・異業種の協働
テーマ	1) 子どもが健やかに育つ環境づくり（青少年健全育成） 2) 地域の受け皿となる地域組織の再構築（地域自治） 3) 災害時避難から避難所生活での困難対応へ（地域防災） 4) 協働のルールづくり（協働） 5) 地域が自立するコミュニティビジネス（地域自立） 6) 市民活動を支える（資金づくり研究会（仮称））



2014 年度総括
<p>テーマ6) について、愛知よりコミュニティユースバンク momo の木村真樹氏をゲストにお迎えし、地域内の資金循環について市民による「融資」と市民による「寄付と助成」の仕組み等について情報提供いただいた。市民提案型まちづくり事業補助金プログラムのポジションが明確になり、糸満市内の資金循環の仕組みの構築イメージを共有することができた。</p> <p>テーマ2) の地域自治について、農村地域再生発見事業のモデル地区である大里の嘉手志川をテーマに、公益財団法人みらいファンド沖縄の協力得て、沖縄式地域円卓会議を開催した。課題の共有や若い世代の参加につながっている。</p>

■「資金」循環プログラムとしての「市民提案型まちづくり事業補助金」

～より開かれ、育ち合う～

2014-2016 提案	
ねらい	より開かれたプログラム運営による団体の成長の機会の提供と団体属性と事業内容の多様化
内容	<p>○申請機会の拡大と申請サポート（目標値：申請倍率2倍）</p> <p>昨年度の交付団体の補助金活用報告会も兼ねた募集説明会の開催（2015-2016年度）／不採択団体の活動PR、フォローアップ／募集期間中の「申請書の書き方・プレゼンテーション」講座、採択後の会計講座の開催などの 公開講座のカリキュラム化</p> <p>○開かれたプログラム運営による学びあいの機会提供</p> <p>公開プレゼンテーションと外部審査委員の参画</p> <p>○採択団体の次のステージへの機会</p> <p>応募書類の作成、プレゼンテーション、会計管理、事業管理、報告書の作成などの補助金プログラムを通じた市民活動力の向上につながるセンター事業の展開／「事業の成果」と「団体の成長」という指標づくり／補助金以外の自主財源の開拓につながる支援</p> <p>○「補助」から市民参画型の「マッチングファンド」の検討（資金づくり研究会（仮称）として）</p> <p>「市民提案型まちづくり事業補助金」プログラムに対する民間寄付と自治体財源からのマッチングによる個別補助プログラムの開発の検討（ふるさと納税制度との連携も含めて）</p>



2014年度総括

センター運営の軸として展開した。事業募集から選定、実施、報告の年間を通じたプログラムについては、提案事項について一通り手をつけたが、報告会や申請書書き方講座の持ち方については課題が残る。審査のためのプレゼンテーションを初めて公開で実施することができた。より多くの参加を得ながら、団体同士が学びあえる機会として、定着させていく。外部審査委員の参加については昨年度と同じく2名であったが、次年度は市役所内部の審査員は1名とすることが合意されたため、外部枠を増やしていく。本プログラム以外のセンター内外のメニューとのつなぎ（コーディネート）については、赤い羽根共同募金等プログラムへのつなぎの実現などできたこともあったが、今後より連携を深めていかなければならない。市民の寄付とのマッチングファンド方式については、千葉県浦安市での「浦安市市民活動基金」の事例情報を得たが、議論までは至っていない。市民の参加と選択を進めるためのしかけとして継続して情報収集、検討を行っていく。

■ 「人」の循環のしくみとしての「まちづくりカフェ」
～異分野・異業種のネットワーク化～

2014-2016 提案

ねらい	異分野・異業種の人と活動がまざりあう場として、市内の活動を応援する人が増えていく場としての「人」の循環のしくみづくり
テーマ	<p>○「見る」から「体験」する、「体験」から「応援・支える」へ 地域の課題を知り、活動を体験し、人に触れるようなパネル展示・ブース出展／寄付体験「まちけっと」をきっかけとした活動を応援する人のコミュニティを育む</p> <p>○市役所での開催 市役所1階のロビーと2階ギャラリースペースを活かした一体感のあるプログラム実施／他イベントとの同時開催で相乗効果をねらう</p> <p>○異分野・異業種の団体交流 異分野・異業種の人が「まざりあう場」、「耕される場」としてのまちカフェ</p>

2014年度総括

実施	次年度に向けて
<p>企画委員会を組織し、企画段階から団体と一緒につくりあげるプロセスを大切に進めた。寄付体験「まちけっと」は551,500円が流通し、内38,900円が団体への寄付となった。市役所1階の市民ホールでの開催を実現できた。てくてくウォーキングとの同日開催の相乗効果もあり、1500名をこえる参加を得た。41のブースが出展し、自治会、子ども会、NPO、企業、行政、等多様な立場の参加を得た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> メンバーが役割の中で判断できるよう、準備の段階からの分担を進め、実行委員会主催での開催に取り組む。 団体支援の趣旨が伝わりにくいことと等から、次年度は団体支援に特化した「まちけっと」も検討していく。

1-2. 糸満市をとりまく地域状況と市民活動環境

(1) 糸満市内のNPO法人・市民活動団体の概況

把握できる団体として、糸満市に主たる事務所を置くNPO法人と糸満市社会福祉協議会に登録しているボランティア団体、自治会がある。他にも任意団体や一般社団法人等の公益法人もあるが、特に任意団体の正確な数字を把握することは難しい。

① NPO法人数（2015（平成27）年3月現在）

糸満市内 **14** 法人（沖縄県内 584 法人）

② 糸満市社会福祉協議会に登録されているボランティア団体（2013年度）

登録団体 **26** 団体

③ 糸満市内の自治会

自治会数 **73** 自治会

(2) 市民活動を支える資金プログラム

糸満市内において、分野を問わず市民の活動を資金面でサポートを行うプログラムは以下の2つがある。

① 糸満市市民提案型まちづくり事業補助金

設置・運営 糸満市企画開発部政策推進課／糸満市市民活動支援センター
30万円コース 2団体、10万円コース 4団体（2014（平成26）年度）

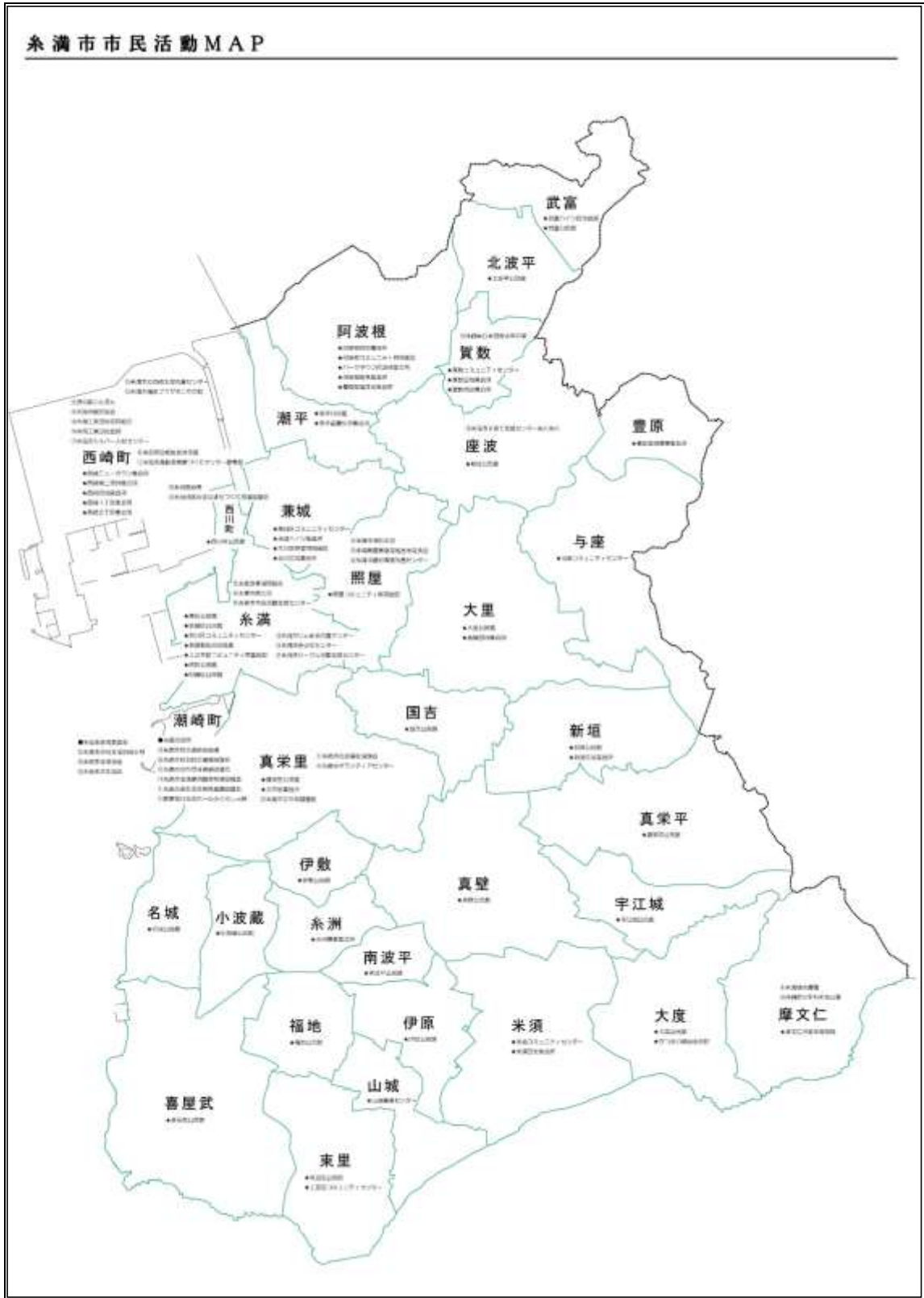
② 赤い羽根共同募金

設置・運営 沖共募糸満市共同募金委員会

(3) 市民活動を支える中間支援機能を有する機関

糸満市内において、市民活動を支える機能を有する機関は以下の通りである。

- ① 糸満市市民活動支援センター
- ② 糸満市社会福祉協議会ボランティアセンター
- ③ 糸満市生涯学習支援センター（元糸満市中央公民館）
- ④ 糸満市消防本部
- ⑤ 糸満警察署
- ⑥ 糸満市商工会



エリア別市民活動団の分布

(4) 人口から読み解く地域の現状

①糸満市内の人口の世帯数

人口：**59,723**人 世帯数：**24,003**世帯

2015年 (平成27年)	人口(単位:人)			世帯数 (単位:世帯)
	総人口	男	女	
3月末	59,723	30,073	29,650	24,003

(引用) 糸満市HP

②糸満市内の外国人

外国人登録人口 **169**人 (2011年度人口比0.3%)

(単位:人)

	総数	アメリカ	中国	フィリピン	ペルー	ブラジル	アルゼンチン	その他	無国籍
2011年度	169	22	54	31	-	5	1	56	-

(参考資料) 平成23年版 統計いとまん (市民課資料)

③人口の推移と高齢者率、等

人口は増加を続けるが、15歳~65歳の生産人口は減少に転じていく見込みである。
65歳以上の高齢者率は増加し続け、2020年には高齢者率22%の見込みであり、

高齢者1人を支える生産人口は**2.7**人(2020年)となる見込み。

糸満市	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年
人口計(千人)	50	55	57	59	59
			15%		3%
0~14歳	14	12	11	10	9
			▲22%		▲14%
15~64歳(A) (生産人口)	31	35	37	36	35
			21%		▲7%
65歳~(B) 高齢者率	5 11%	7 14%	9 17%	13 22%	15 26%
			57%		42%
A÷B	5.9人	4.7人	3.9人	2.7人	2.2人
75歳~		3	5	6	9
			44%	25%	43%

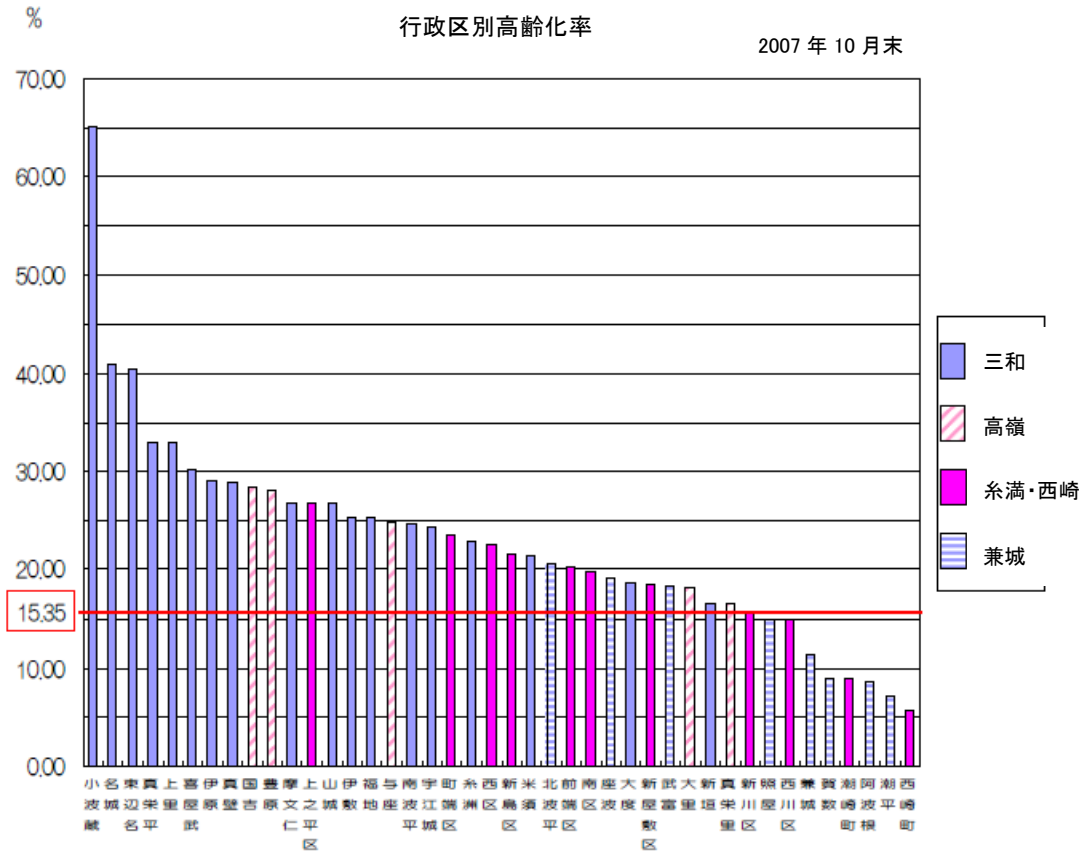
高齢者1人を支える生産人口

(参考資料)

- ・国勢調査：年齢(3区分)、男女別人口及び年齢別割合—都道府県、市町村(昭和55年~平成22年)
- ・日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・日本の市区町村別将来推計人口(平成15年12月推計)/国立社会保障・人口問題研究所
- ・川北秀人氏(IIHOE代表)研修資料

④行政区別にみる地域の現状

行政区42のうち **34** 行政区が、市の高齢化率（2007年（H19年）：15.35%）を上回っている。



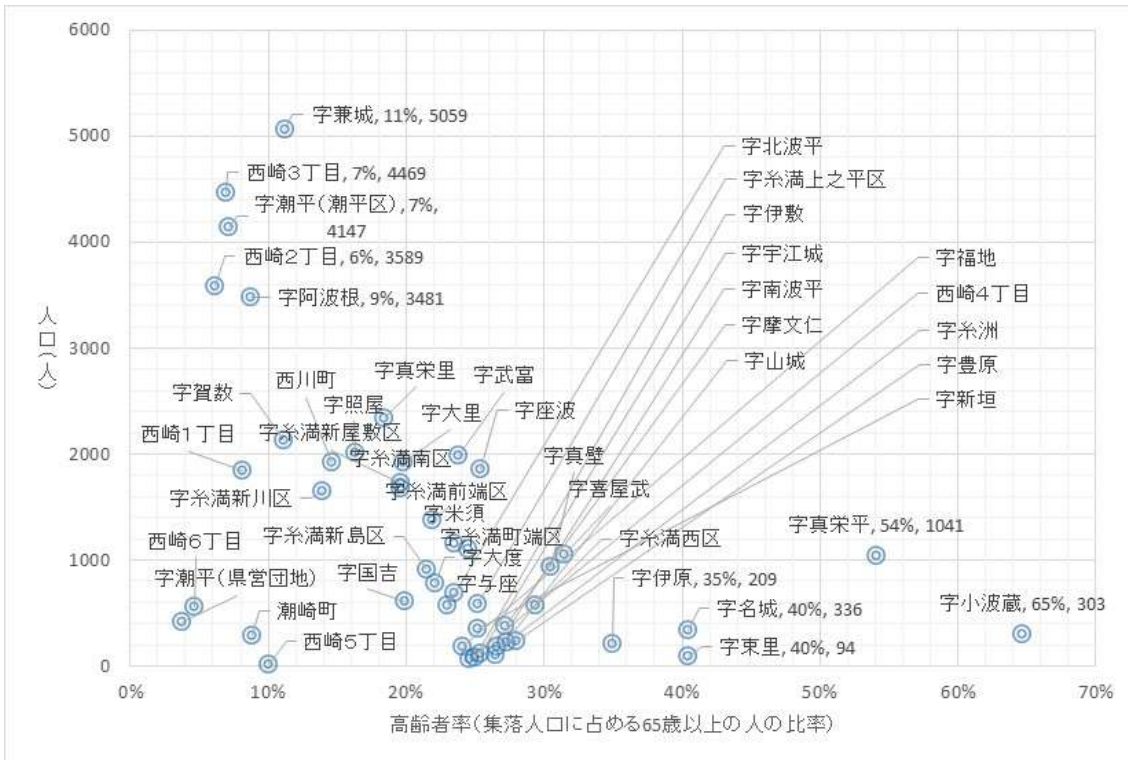
(引用)「糸満市老人福祉計画及び介護保険事業計画」第5期計画より

高齢者率と高齢者独居世帯率における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

高齢者率と人口における地区分布



※「平成22年国勢調査」データより作成

1-3. 2014年度 市民活動をとりまく社会環境をふりかえる

(1) 「NPO法人制度・税制度に関する要望事項」

政府税制調査会と与党税制調査会で、認定NPO法人制度（認定特定非営利活動法人制度）の優遇税制の見直しが議論されている。また、超党派のNPO議員連盟では、NPO法改正の議論が進められている。そうした中、NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会は「寄附税制の拡充」「認定NPO法人制度の改善」「NPO法人制度の改善」の3点について、要望事項としてまとめた。

（参考）NPOWEB（NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 HP）http://www.npweb.jp/wp-content/uploads/2014/05/yobosho_20140528.pdf

(2) 内閣府において「共助社会づくり懇談会」報告書が取りまとめらる

共助社会づくり懇談会において、平成26年度は、目指すべき共助社会の姿とその担い手となる様々な主体の取組について議論を実施。平成27年3月12日に報告書「共助社会づくりの推進について～新たな「つながり」の構築を目指して～」が取りまとめられた。

（参考）共助社会づくり懇談会（内閣府）

<http://www.npo-homepage.go.jp/kaigi/kyoujo-shakai/kyoujo-shakaitoha>

(3) まち・ひと・しごと創生本部の設置

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、政府によって、まち・ひと・しごと創生本部が設置された。

（参考）<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>

(4) 全国で展開される33の「市民コミュニティ財団」

地域社会における社会投資を促す存在として「市民コミュニティ財団」が注目を集めている。日本では2009年に京都地域創造基金が設立され、沖縄でも2010年4月に「みらいファンド沖縄」が設立された。全国に広がりを見せ、多くの地域に根ざし始めており、2014年に各地の財団が連携し「全国コミュニティ財団協会」が結成された。

（参考）全国コミュニティ財団協会 <http://www.cf-japan.org/>

(5) 2014年度に第5回「協働環境調査」～全国255自治体を調査～

2004年に全国の各自治体の「協働のしやすさ」について可視化する初めての調査「協働環境調査」がIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]によって行われた。2014年度に第5回目となる調査が実施され、沖縄の自治体については、NPO法人まちなか研究所わくわくが協力し、7自治体（沖縄県・那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・うるま市・糸満市）を対象に調査が行われた。

（参考）協働環境調査ブログ <http://blog.canpan.info/kyodo-kankyo/>

第2章 ハイライト

2-1. 数字でふりかえる市民活動支援センターの4ヵ年

①人数

— ▶ **1,586人** ▶ **2,406人** ▶ **3,544人**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※外部でのイベント・会議に関わった人数も含む

②来館者・件数の推移（日平均）

5.2人 ▶ **3.3件** ▶ **3.3件** ▶ **3.1件**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2011年度開館：11-3月

※2011年度は「人数」、2012年度・2013年度は「件数」でカウント

※業務総件数 2014 4551/17.8、2013 3927/15.4、2012 3203/14、2011 1488/14.6

③来館者・件数の総数（年間）

530人 ▶ **761件** ▶ **837件** ▶ **790件**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2011年度開館：11-3月

※2011年度は「人数」、2012年度・2013年度は「件数」でカウント

④相談件数の推移（年間）

36人 ▶ **155件** ▶ **377件** ▶ **478件**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2011年度開館：11-3月

※相談件数には、来所相談、電話相談、出先相談を含む

⑤市民提案型まちづくり事業の申請倍率（申請数）

1.4倍 ▶ **2.3倍** ▶ **2.0倍** ▶ **1.25倍**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度
 — 10万円 (申請7団体/採択3団体) 10万円 (申請8団体/採択4団体) 10万円 (申請5団体/採択4団体)

▶ **5.0倍** ▶ **2.5倍** ▶ **2.0倍**
 2012年度 2013年度 2014年度
 30万円 (申請5団体/採択1団体) 30万円 (申請5団体/採択2団体) 30万円 (申請5団体/採択4団体)

※2011年度は7団体が申請し、5団体が採択されているが、補助額は団体によって異なる（7万円-19万円）

※2009年度は5団体が申請し、3団体が採択（1.7倍）

※2010年度は4団体が申請し、3団体が採択（1.3倍）

※2013年度は10万円コース3団体→4団体、30万円コース1団体→2団体へ増枠

⑥市民活動パネル展（2011/2012年度）・糸満まちづくりカフェ（2013年度）参加団体

20団体 ▶ **23団体** ▶ **36団体** ▶ **41** ブース
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2014年度は合同で参加した団体あり

⑦ブログ記事数の推移（年間）

194件 ▶ **289件** ▶ **404件** ▶ **379件**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2011年度開館：11-3月

※2013年度は前年度に積み残した記事も掲載した

⑧ブログの閲覧数（PV）（日平均）

30 PV ▶ **50 PV** ▶ **60 PV** ▶ **70 PV**
 2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

※2011年度開館：11-3月

※2012年度の多い日は70-80件、2013年度の多い日は80-90件、2014年度の多い日は100-110件

2-2. 糸満市市民活動支援センターに関する出来事(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

期日	事業	主催・所管課	内容
4月1日	単月契約 4月30日まで	市民生活環境課・まちなか研究所わくわく	2014年4月度糸満市市民活動支援センター整備推進事業 所管課が政策推進課から市民生活環境課へ移管
4月16日	糸満市社会福祉協議会評議員会出席	糸満市社会福祉協議会	市内の地域福祉の現状等・情報共有を目的に諮問機関として宮道が出席、合同研修含め出席
4月30日	市合同月例ミーティング	市民生活環境課・センター	初回は前所管課の政策推進課も参加 5月9日・1月6日ビジョンワークショップ含め全12回開催
4月～5月	NPO法改正に伴う定款確認	沖縄県県民生活課	市内NPO法人へ呼びかける。他、10月県内3市町村で開催された 沖縄県NPOプラザ主催の講座に共催・協力
5月1日	契約 2017年3月31日まで	市民生活環境課・まちなか研究所わくわく	糸満市市民活動支援センター整備推進事業(3年契約)
5月2・16日	中央市場商店会総会・中央市場整備検討協議会出席	中央市場商店会・商工観光課	市場会員として新垣が出席 協議会は市場立替説明会含め全7回開催
5月13日	おきなわ市民活動支援会議参加	県内中間支援組織	情報や意見を交換し連携することで、効果的な市民活動支援を行うことを目的にした会議で1開催 主に宮道が参加
5月16日	三重県菟野町議会視察対応	議会事務局	市民生活環境課・センターからは上原が対応 他、3月10日は浦添市ボランティア連絡協議会による視察
5月17・18日	農村地域再生発見事業 大里あるものさがし開始	地域おこし協力隊・センター	7月・11月あるものさがし含め全3回開催、11月23日看板設置 7月19日「大里を元気にする地元学のススメ」講演会を開催
5月19日	糸満警察署協議会出席	糸満警察署	市民から意見を聴く諮問機関に上原が委員として出席 全4回開催
5月20日	自治連絡員会議において 広報紙発行開始	市民生活環境課	2014年度センター事業の説明とご挨拶 広報紙「日々是好日」全4回発行
5月25日	ちむちむ市場開催につき臨時閉館	中央市場商店会	市場周辺での行事の際は休館日でもセンターを臨時閉館 ちむちむ市場全6回・他ワンダーマーケット
6月7日	市民提案型募集説明会・申請書書き方講座開催	市民生活環境課 センター	申請書書き方講座は、市外にも対象を拡げて事前告知
7月12日	市民提案型まちづくり事業審査会開催	市民生活環境課・センター	7月4日審査委員会では審査基準等について事前打合せ、当日は9団体の公開プレゼンテーションによる審査を行う
7月11日	字糸満情報交流会出席	糸満自治会長会	市在の各団体が情報交換し親睦を深めることで字糸満全体の活性化につなげることを目的とした会に上原・新垣が出席
7月26日	市民提案型まちづくり事業交付説明会・会計講座開催	市民生活環境課・センター	交付団体対象の説明会後に緑間優税理士事務所より講師を迎え会計講座を開催、合わせて市内2法人の会計相談会も開催
8月15日	市民提案型まちづくり事業交付団体による市長表敬	市長	6つの交付団体が各事業の説明、上原裕常市長より激励の言葉を頂く。他、行事前の市長記者会見にも参加広報
8月18日	第5回テーマ型座談会開催	糸満市資源循環研究会・センター	資源循環研究会の学習をかねて開催 テーマは「糸満市民のお金が地域の新しいつながりをつくる」
10月18日	西崎ニュータウン自治会自主防災会夜間訓練への協力	西崎ニュータウン・自主防災連絡協議会	他、3月4日西崎ニュータウン避難場所協定式、3月11日糸満市自主防災連絡協議会防災講演会の事前告知や当日取材など協力
11月18日	まちづくりカフェ実行委員会開始	センター	協力関係にある団体他、新メンバー迎え13名で構成 計4回開催 個別に飲食団体向けMT・ステージ団体MT 計3回開催
11月26日	ラウンドアバウト講演会への協力	都市計画課	講演会事前告知ほか、会場にてラウンドアバウト体験コーナー設置等広報協力
12月10・11日	まちの縁側ボラセン関係者懇談会・講座参加	糸満市ボランティアセンター	NPO法人まちの縁側育み隊の延藤安弘を囲んで上原が座談会に、講座に新垣が参加
1月10日	第6回テーマ型座談会開催	センター	農村地域再生発見事業と抱合せて開催 テーマは「大里・嘉手志川から地域自治を考える地域円卓会議」
2月15日	糸満まちづくりカフェ2015開催	〃	本番に先がけ2月9日～13日市役所1階でPR週間を実施 てくてくウォーキング大会と同日開催
3月15日	大里再発見プロジェクト 大里ムラヤーまつり共催	大里再発見プロジェクト	農村地域再生発見事業の一環としてあるものさがし年度末成果報告会のほか、やる気宣言・自由市など実施

2-3. 市民活動支援センター 事業トピックス

(1)糸満市市民提案型まちづくり事業の企画推進

【ねらい】

市民団体及びグループ等が、自主的、主体的に企画実施するまちづくり事業に対し、予算の範囲内で事業の経費の一部を補助することによって、持続的な取り組みを実現していくことを目的とする。

○概要

今年度で6年目となる本事業の事務局として、所管課とともに交付要綱・募集要項の見直しをはじめ、募集・審査・取材広報・報告と一連の業務を行った。

①募集期間

2014年5月27日(火)～6月27日(金)

②募集説明会・申請書書き方講座の開催

※申請書書き方講座の詳細は次頁

2014年6月7日(土) 14:00～16:30 3-c会議室

③審査

審査員による事業計画書等の応募書類とプレゼンテーションによる審査を行った。

審査会

日時：2013年7月12日(土) 10:30～15:20

会場：市役所3-c会議室

申請：10万円コース 5団体(交付4団体) 申請場率1.25倍

30万円コース 4団体(交付2団体) 申請倍率2.00倍

委員：4名

岩田 直子(沖縄国際大学人間福祉学科教授) 審査委員長

野原 哲(糸満市役所市民健康部部長)

仲吉 正弘(糸満市役所市民健康部市民生活環境課課長)

小那覇良一(糸満市社会福祉協議会共同募金担当)

④交付団体と事業名

10万円コース

新世界映画祭実行委員会

「新世界映画祭」

真栄里チャレンジ会

「チャレンジみそづくり」

南区ユイマール子供会

「つながる・つたえる・地域連帯夏祭り」

パフォーマンスサークルきらきら 「レリゴー！パフォーマンス講座で自己表現」
30万円コース

糸満市絵本の読み聞かせ同好会 「絵本の読み聞かせ環境づくり」

糸満市食生活改善推進員協議会

「健康長寿復活に向けて『食』について学ぶ」

⑤交付説明会（会計講座同時開催）

※会計講座の詳細は次頁

日時：2014年7月26日(水) 13:00～13:25

会場：市役所3-a会議室

内容：事業開始から実績報告までの流れ

領収書等の補助金執行管理、活動記録シートの活用について他

⑥センター広報紙「日々是好日」で交付決定事業の紹介

※情報発信の詳細は次頁

Vol.13 交付団体と事業内容、審査総評・審査項目、市長表敬の様子を掲載

Vol.14 各事業の活動レポートの掲載

Vol.15 各事業の活動報告、決算報告の掲載

⑦糸満まちづくりカフェ2015にブース参加

※まちづくりカフェの詳細は次頁

日時：2015年2月15日(日) 10:00～16:00

会場：糸満市役所市民ホール・アマハジ・市民広場

内容：事業を提案した理由、経過、現時点での成果、今後の展開



交付説明会



審査会公開プレゼン

～ 交付団体の声 ～

- ・プレゼンテーションでは団体の課題を客観的な視点で得ることが出来た。審査コメントを頂けたのも有難かった
- ・他の団体の方と知り合えた事、一緒に出来る事をしたいと思った
- ・活用記録シートや留意点等の資料が報告書の作成時に役立った
- ・もっと多くの市民に、この補助金事業を知ってもらおう広報活動があると良い
- ・他の団体の報告書も見てみたい気がした。補助金は最初で全額頂けると助かる

(2)-1 市民活動講座(補助金申請書書き方)の開催

【ねらい】

市民活動を活発にするための手段として補助金制度の活用があることを知り、受けたい補助金事業の要項を読み込み理解し、審査員に企画や活動内容が伝わる申請書の書き方がわかる。

○概要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアベースで、活動資金を自己負担する団体が多く、活動の幅が広がらない要因ともなっている。また市民活動に活用出来る補助金制度を知ってはいても申請書の書き方が分からない、難しい、面倒であるといった声があり、なかなか申請に踏み込めない団体も多い。

市民提案型まちづくり事業募集説明会と併せることで、申請にチャレンジしやすくなるように書き方講座を開催した。

日 時：市役所 3-c 会議室

会 場：2014年6月7日(土) 14:00～16:30 ※募集説明会終了後

講 師：宮道喜一（市民活動支援センター長）

参 加：29名（非営利法人、任意団体、自治会、企業、行政）



～ 講座受講者の声 ～

- 補助金の意味が分かった。申請書の書き方を出す側の視点をふまえて書くということが分かりとても良かった。ワークショップも新しい観点が得られよかった
- 申請書の書き方から実際に記入しプレゼンして評価まで頂き、この上なく満足できる内容。持ち帰って役立てて、しっかり補助金を獲得したいなと思った
- 補助金だけでなく、事業についても再考することができ参考になった
- 14時スタートというのは良かったが、時間が足りないと感じた

(2)-2 市民活動講座(会計)の開催

【ねらい】

日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、団体の活動がわかる決算書作成の方法や
 税務処理が出来るよう会計税務の基礎がわかる。

○概 要

糸満市の市民活動団体の多くはボランティアを中心とした団体であり、団体の管理運営
 まで時間や労力を割くことが困難な状況である。また、法人化している団体であっても資
 格を持たないスタッフが会計業務にあたるのが現状で、決算書作成に戸惑うことが多い。

そこで、日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、演習を通して毎日の会計から決算
 までの流れを理解するための会計講座を開催した。市民提案型まちづくり事業交付団体に
 は、昨年度に引き続き本講座への参加を義務付けた。

テーマ：会計の基礎を学ぶ～毎日の会計と決算～

日 時：市役所 3-c 会議室

会 場：2014年7月26日(土) 13:30～15:30 ※交付説明会終了後

講 師：緑間優氏（緑間優税理士事務所）

参 加：計50名（市民提案型まちづくり事業交付団体、非営利法人や組合、任意団体、
 自治会、学校、企業、行政、個人）



～ 講座受講者の声 ～

- ・講座で得たのは、講師謝金の所得税を団体が支払うという点。知らなければ損失になっていたのがありがたかった
- ・簿記の流れを見直す事ができた。明日からの事務に役立つと思う
- ・内容は分かりやすいが、時間が足りず演習時間が短かったのは残念だった
- ・質問できる時間を設けてもらえたら、より理解度が高いと感じた

(3)まちづくりカフェの開催

【ねらい】

各団体の活動を取り上げることで、地域で実践されている協働と市民活動に対する理解と関心を深めるとともに、市民と団体、団体同士の交流や情報交換を促し、地域のつながりづくりに寄与することを目的に実施する。

○概 要

各団体が取り組むまちづくり活動を来場者に見て体験してもらうことで、地域で実践されている協働と市民活動・地域活動・ボランティア活動に対する理解と関心を深める場として開催した。さらに、今年度は会場を市庁舎とし、同日、市民広場で開催されるてくてくウォーキングに併せて実施することで、より多くの市民が足を運び効果的な啓発活動の場となった。

また、2013年度より引き続き、実行委員会内で議論された寄付体験の検証の場として、市民の寄付に対する理解と関心を深め、団体においては資金造成の機会にもなった。

※資源循環研究会の詳細は後頁

名 称：糸満まちづくりカフェ 2015

日 時：2015年2月15日(日) 10:00～16:00

※PR週間：2月9日(月)～13日(金) 参加：30 パネル

場 所：市役所1階市民ホール・アマハジ・市民広場

共 催：糸満市社会福祉協議会（ボランティアセンター）

後 援：糸満市教育委員会、糸満市消防本部、糸満警察署、糸満市商工会

同日同会場開催：糸満市てくてくウォーキング大会

同時開催：新世界映画祭実行委員会「昔糸満ミニ上映会」

南区ユイマール子供会「十五夜うたミニ座談会」



参加および入場：無料

但し、物品販売や寄付にまちカフェ専用チケット「まちけっと」を使用

まちけっと総売り上げ額：551,500円（内38,900円は寄付）

入 場：1500～1600名

参 加：41ブース（順不同）

ヘルスマイトひまわりの会（糸満市食生活改善推進員協議会）、サンテドボーテ Jstyle、ライフオーガナイズ沖縄 5color's、南部病院、糸満市食物アレルギーの親子会、糸満市社会福祉協議会、沖縄水産高校総合学科福祉系列サービス+食品科学系列、糸満市赤十字奉仕団、就労支援センターたまん、糸満市障がい者ワークエンジョイプロジェクト、モアナフラサークル、パフォーマンスサークルきらきら、糸満市観光市民ガイド友の会、アルベルト城間×県立芸大学生×楽すたいる、糸満ラウンドアバウト社会実験実施検討協議会、西川町向上会、糸満市女性連合会、糸満市観光協会、大里再発見プロジェクト+地域おこし協力隊、ジョン万次郎上陸之地記念碑期成会、古武道太鼓集団風之舞、糸満旗頭振興会、糸満漁民食堂、教育委員会社会体育課、清ら海を守る・糸満の会、糸満ダイビング協会、エコールママステーション糸満支部、糸満市自主防災連絡協議会、糸満市消防団、糸満地区交通安全協会、糸満市女性団体連絡協議会、糸満市絵本の読み聞かせ同好会、糸満市不登校・引きこもりサポートの会、わんから太鼓（西崎特別支援学校父母の会）、真栄里チャレンジ会、南区ユイマール子供会+前端区子供会×SMBC コンシューマーファイナンス、新世界映画祭実行委員会、ファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」、糸満ソーシャルファーム事業部、糸満市ボランティアセンター+登録団体、糸満市市民活動支援センター



募集説明会



実行委員会

～ 参加団体の声 ～

- 他の団体とつながれた。事業に興味を持って話を聞いてくる市民の方もおり、よいPRになった。自主防災会の準備には市民の手伝いがあった
- まちけっとは各ブースで現金を扱わないから良いが、寄付BOXは工夫が必要
- 大成功裏に終了したことに敬意を表したい。市内外から大勢の市民が見学され高い評価を受けたことをともに喜びたい

(4)-1 テーマ型座談会(資源循環)の開催

【ねらい】

糸満市内の市民活動を支える資金循環プログラムの今後のあり方や「お金」を循環させるための「人」のかかわり方など、糸満の地域を支える「お金」の流れについて考え、方向を見出す。

○概要

「市民提案型まちづくり事業補助金」や「共同募金」など糸満市内の市民活動を支える資金循環プログラムの今後のあり方やお金を循環させるための人の関わり方について、ゲスト講師より情報提供してもらい参加者ともに考え方向を見出す。

※資源循環研究会の詳細は次頁

テーマ：糸満市民のお金が地域の新しいつながりをつくる

日時：2014年8月18日(日) 13:30～15:30

会場：糸満市役所 3-b 会議室

ゲスト：木村真樹氏(コミュニティ・ユース・バンク momo・公益財団法人あいちコミュニティ財団 代表理事)

コーディネーター：糸満市市民活動支援センター

参加者：16名(非営利法人・任意団体・自治会・行政・企業)

内容：愛知県を拠点にしたNPOバンクと市民コミュニティ財団の代表を務める木村真樹さんをお招きし、地域を豊かにするお金の循環と人の巻き込みについてお話をお聞きしながら、糸満市の地域を支える資源循環について話し合う。



～ 参加者の声 ～

- ・ 目指している仕組みが明確になった！ 感覚的なものしかなくて数値化の「SROI(社会的投資利益率)」など今欲しい情報だった
- ・ 寄付とボランティア両方に参加する方が出資額も多いということが印象に残った
- ・ 人が「関わりを持ちたい」と思う仕組みづくりや体制を学べた

(4)-2 テーマ型座談会(大里・嘉手志川から地域自治を考える)の開催

【ねらい】

大里・嘉手志川における課題について、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論する。

○概要

糸満市大里には、南山城跡や豊富な水が湧き出る嘉手志川(ウフガー)など豊富な地域資源がある。特に嘉手志川は、地区内外の利用も増えている一方、周辺の違法駐車やゴミの散乱などが目立ち始めている。

そこで、地域資源を生かしながら、皆が気持ちよく利用できる嘉手志川にしていくために、どのような取り組みが必要かを話し合う。

※農村地域再生発見事業の詳細は後頁

テーマ：嘉手志川を地区内外の人に気持ちよく使ってもらうには

日時：2015年1月10日(火) 14:15～16:45

会場：糸満市役所 3-c 会議室

論点提供者：神谷栄信氏 (糸満市大里自治会評議員)

※敬称略

着席者：比嘉隆司(米須世話役会会長)板持周治(雲南市役所)川北秀人(IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)我那覇拓己(糸満市役所)崎山正美(有)風水舎代表)ぐしともこ(湧き水 fun 倶楽部代表)北村正貴(糸満市地域おこし協力隊)

司会進行：平良 斗星 氏 (公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長)

記録者：宮道 喜一 (糸満市市民活動支援センター長)



～ 会場より視点の提供 ～

- ・大里にとって嘉手志川は大切な場所というメッセージを伝える
- ・シャワー設置やバザー、かき氷販売など週末市場を作る
- ・自治会、行政、学校や外部と連携する
- ・利用者負担の仕組みをつくる
- ・川あそびのエリート教育(川を知りつくし川で遊びつくす子どもを伝え手にする)

(5)-1 市民活動相談

【ねらい】

市民活動団体や市民活動に興味を持つ個人が、活動をする上での困りごとや疑問を気軽に相談解決出来るような環境をつくる。

○概要

開所4年目となりセンターの存在や活用方法が周知されることで、昨年度より約100件増加。それに伴い相談者の属性も多様化したが、シーズンごとの傾向やニーズが分かってきた。分野も多岐にわたり専門的知識が必要な内容も多くなってきたが、センターで完結させるのではなく、この機会を活かし協働へとつなげていった。

対応数：のべ478件

内容：市民提案型まちづくり事業補助金148件、
団体・スペース・イベント情報コーディネート150件、NPO等法人設立12件、
組織運営(会議運営・会計税務含む)17件、
助成金情報3件、事業イベント運営39件、
広報75件、その他34件

日時：原則として事前予約の上、実施



相談環境が整いつつあるセンター

考察1) 市民提案型まちづくり事業関連

昨年度に引き続き、市民提案型まちづくり事業に関して申請書類の整え方やプレゼンテーションの方法、交付団体の概算請求、報告書作成など、各団体より多数の継続的な相談が持ち込まれ対応した。これらの相談を通して団体の抱える課題を把握出来た。

考察2) 相談から協働へ

分野も多岐にわたり専門的知識が必要な内容も多くなってきた。例えば、医療系支援団体が行政に対して行う医療ガイドライン提案の相談では、センターで完結させるのではなく、この機会を生かし関係する機関と連携することで協働へとつなげていく。

考察3) 相談から地域課題を探る

センターが認知されるにつれて、困りごとを持つ当事者の利用も出てきた。例えば、夏休み期間中の児童生徒の学習支援を行う団体についての問い合わせをきっかけに、地域課題やニーズを知ることもあった。

(5)-2 専門家による相談

【ねらい】

各団体の困りごとに、個別対応が可能な専門家による相談ニーズの把握と専門家とのネットワークをつくる。

○概要

NPO の会計・税務・労務について対応可能な専門家は市内にまだ見当たらないが、福祉系の年間事業規模 3000 万円を越す団体については、既に税理士等の専門家と顧問契約を結べており、直接相談できる先を確保出来ている。

しかし、年間事業規模 300 万円～1000 万円程度にある団体は、会計・税務について個別相談する先を持たず困難を抱えている状況である。これらを踏まえ消費税課税団体でかつ契約税理士を持たない団体中心に声をかけ、会計講座終了後に相談会を行った。

日時：2014 年 2 月 16 日(日) 15:45～17:15 ※会計講座後終了後

会場：糸満市役所 3-a 会議室

料金：3000 円(但し相談員が受け取りを辞退)

相談員：緑間 優 氏 (緑間優税理士事務所・代表)

相談者：法人格を取得して間もない NPO 法人 2 団体

※NPO 法人の専門知識が必要なため相談者の許可を得て宮道も同席

考察 1) 事務の領域と団体の悩み

会計は日常ルールの設定や NPO 法人会計基準等について、税務は消費税課税団体の境界対や消費税増税対応、法務は変更登記等の悩みがある。他にも指定管理受託に伴い事務上混乱が生じる場合もある。労務については今のところ差し迫った悩みは見えない。

考察 2) アプローチ方針

センター窓口では、いとまんページやブログ Q&A での情報提供を行い、必要に応じて相応しい専門家の紹介等を行う。要望の多い会計については市民提案型まちづくり事業のスタート講座として実施、さらには NPO プラザ主催の講座等につなげる。

考察 3) 専門家による個別相談のこれから

NPO 法人向けの個別相談ニーズは見えにくい状態だが、有料でも相談会を希望する声もあり、引き続き料金や時期、募集の方法を検討していく。他のアプローチとして、企業の経理担当者やデザイナーなどの専門知識を団体運営に活かす方法も検討したい。

(6)市民活動の見える化・情報発信

【ねらい】

糸満市内で活動する団体や市民活動に関する情報をわかりやすい形で提供し、いつでも市民が活動へ参加したり、地域の課題解決に取り組めるように市民活動の見える化に努める。

(6)-1 広報紙「日々是好日」の発行

○概要

3ヶ月に一度、糸満市内の市民活動状況をはじめ、特に2014年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体の事業を紹介した。

- 発行：Vol.12（5月発行）
- Vol.13（9月発行）
- Vol.14（12月発行）
- Vol.15（3月発行）

部数：各号600部



□Vol.12 「まちセン」ここが変わります！！

- 1 ページ 「まちセン」ここが変わります！！
- 2 ページ ・団体紹介：糸満市国際交流女性会
・2014年度スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.13 アイデアいっぱい！2014年度公開プレゼンテーション初開催！！

- 1 ページ 今年度も6団体揃って市長を表敬！
- 2・3 ページ 2014年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体決まる！
- 4 ページ 団体紹介：糸満市・南部地区食物アレルギー親子の会
2014年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.14 子どもと一緒に「守る・残す・伝える」を取り組む大里地域再生発見事業

- 1 ページ 大里これまでの歩み
- 2・3 ページ 平成26年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体レポート！
- 4 ページ 団体紹介：糸満市女性団体連絡協議会
2014年度まちセン*スケジュール、市民活動の情報発信にご活用ください！

□Vol.15 センター事業三年間の振り返り	
1 ページ	2014 年度の集大成「糸満まちづくりカフェ 2015」を開催しました！
2・3 ページ	平成 26 年度糸満市市民提案型まちづくり事業補助金交付団体報告！
4～7 ページ	ステキなまちにしたいよね 糸満まちづくりカフェ 2015
8 ページ	2014 年度センター事業報告、まちづくり活動の情報発信にご活用ください！

(6)-2 ブログで情報発信

○概 要

糸満市内で活動する団体の多くは独自で情報発信するツールを持たず、またその活動を紹介する媒体も少なく情報が得にくい。また市民活動に取り組む際、地域に特化した情報が整理されておらず、必要な情報を入手するのが困難である。記事を掲載する際はブログの検索機能を活用し、情報を引き出しやすいよう工夫した。

URL : itomansaposen.ti-da.net

更新日 : 毎開館日

記事数 : 年間 379 件

閲覧数 : 日平均約 70 件 (多い時で 100~110 件)

インフォメーション : ご利用案内、まちセンからのお知らせとお願い、2014 事業、2014 スケジュール、関係機関リンク、市内団体リンク

記事カテゴリ : まちセン概要、まちセン事業報告書、市民活動相談、市民活動講座、テーマ型座談会、市民提案まちづくり事業、農村地域再生発見事業、糸満まちづくりカフェ、i いとまんページ、広報紙「日々是好日」、資源循環研究会、2012 センター事業、2011 センター事業、市民活動 20 の分野、市民活動 Q&A、市民活動イベント情報、市民活動スペース情報、補助金・助成金情報、視察・研修、糸満市中央市場周辺、その他



(6)-3 市民活動便利帳「いとまんページ」の作成

【ねらい】

市内の市民活動に関する基本的な情報を取りまとめて便利帳を作成し関係機関が活用することによって、市民の問い合わせに対しどの窓口でもその場で等しく情報が得られる環境を目指す。

○概要

2012年度の第1回テーマ型座談会において、市内の市民活動支援機関でさえ、それぞれが把握している情報を共有出来ていないことが明確になった。便利帳の作成と活用を通し市内関係機関とのネットワークを築き、ともに糸満市内の市民活動の「見える化」に取り組む。情報収集を通して団体の活動内容が見え、当センターのことを知ってもらえる機会となっている。

- ① 追加可能な形式でファイリング！
- ② センターはじめ、市民からの問合せ窓口機関に設置！
(同内容をブログでも閲覧可能にする)
- ③ 市民活動団体情報や市民活動に関する年間スケジュール、スペース情報、市民活動をサポートする窓口、さらに市民活動Q&Aも掲載し市民からの問い合わせに対応！

○進捗状況（2015年3月時点）

- ・表紙デザインを糸満ハーレースタイルに変更
- ・今年度は、センター他に市民生活環境課へ設置
- ・市民活動団体情報は現時点で14団体分を掲載
- ・メディアへの広報先一覧も追加掲載、センターが把握している公的機関への各種申請方法等も掲載予定
- ・今後は、情報更新など管理のしやすさを考慮し、いとまんページWEB版も検討



(7)資源循環研究会

【ねらい】

2011 年度に資源循環について議論し、提案した内容を踏まえた実験的実践を行ない、持続的なしくみづくりへの方向性を示す。

○概 要

2011 年度に①小さいチャレンジを促し耕し支える仕組みづくり②地域で資源をまわし、つながりをつくる③既存イベントや仕組みを活用し、異分野・異業種コラボレーションを生み出すことを提示した。2014 年度にはまちづくりカフェにおいて、①まちけつによる寄付体験②フードドライブ③ノウハウや情報の循環への取り組みを検証し、イベント自体が糸満市の資源循環のしくみとなることを目指した。

今年度は、ゲスト講師を招き「糸満市民のお金が地域の新しいつながりをつくる」をテーマに座談会を開催した。さらに昨年引き続き、まちづくりカフェにおいて、まちけつによる資金の循環に取り組んだ。 ※まちづくりカフェ・テーマ型座談会の詳細は先頁

提案1) まちカフェ自体を多様な資源循環の場へ

まちづくりカフェは、年1回の「資金」「人材」「情報」「活動」等の資源循環の場として定着させていくことを目指す。市民の「共感」を軸として、「体験」「選択」「双方向」をキーワードに展開していく。

提案2) 資金循環のイメージ～市民提案型まちづくり事業補助金とマッチングファンド

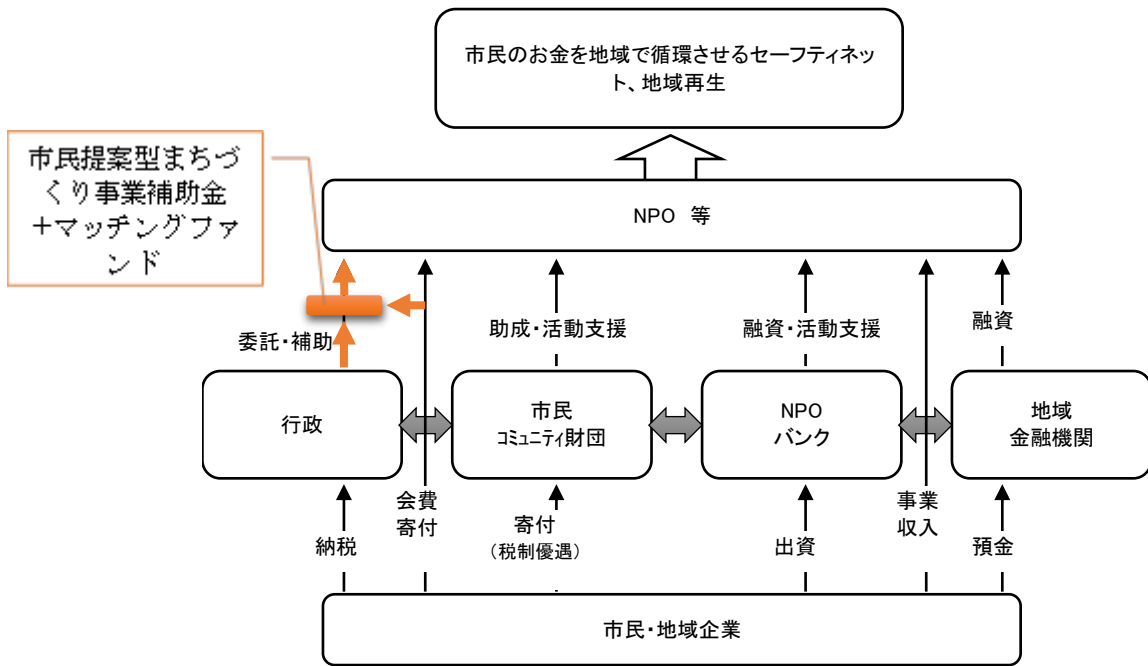
行政からの補助金だけでなく、市民からの寄付もあわせたマッチングファンドの仕組みを検討していく。

(参考) 浦安市市民活動補助金制度

「市内で身近な地域の課題を解決しようと、いろいろな市民活動（社会貢献活動）が行われています。しかし、市民活動団体の多くは資金不足が原因で十分な活動ができないという悩みを抱えています。そこで、市では市民活動補助金制度を定め、この補助金の基となる「浦安市市民活動基金」を設置しました。

市民活動基金は、市民・企業・行政の3者が一体となって積み上げていく「マッチング・ギフト方式」をとっています。「マッチング・ギフト方式」とは、市民や企業から寄せられた寄付と同額を、市の一般会計からも拠出する仕組みです。つまり、皆さんからの寄付が2倍になって、市民活動に生かされることとなります。

－浦安市 HP より引用－



木村さん提示資料より
 (参考)名古屋市市民活動促進基本方針(2011年12月)/図 資金が地域で回る仕組みのイメージ(例:市民ファンドの場合)

提案3) 開かれた「市民提案型まちづくり事業補助金」プログラム

市民と団体が学びあい育ちあうメニューとして「申請書の書き方講座」「外部審査委員の導入」「公開プレゼンテーション」「年間を通じた情報発信支援」「不採択団体のフォローアップ」「まちづくりカフェでの中間報告」「テーマ型座談会での事業報告」を展開していく。

(8)農村地域再生発見事業

【ねらい】

地域コミュニティの再生を目指すとともに、集落の自立的発展を促し、地域のつながりを深めながら、地域伝統に根付く住み良い元気なまちづくりを図る。

前例である米須地区と新しい地区を基盤とし、自立的なむらづくり活動のモデルとして他の集落へ波及を目指す。

○概要

2014年度の目標として①事業を運用する世話役会の増員新編成②あるものさがしの手法の習得③大里の資源を再発見し今後の活動方針の決定④啓発活動としての広報活動の展開をあげ、下記の通り実施した。

①3回の大里あるものさがしを実施

地元学ネットワーク主宰の吉本哲郎氏をアドバイザーに迎え、「未来の大人たちへインタビュー」「むらづくりに対する思い」「嘉手志川をきれいにしよう」をサブタイトルに3回のワークショップを開催した。

②第2回むらづくり講演会の開催

日時：2014年7月19日(土) 16:00～18:00

場所：大里公民館

講師：吉本哲郎氏（地元学ネットワーク主宰）

天野浩（紅茶生産者）

米田誠司（愛媛大学法文学部講師博士）

参加：30名（世話役会・事務局含む）



③あるものさがし年度末報告会

～大里ムラヤーまつり～の開催

日時：2015年3月15日(日)

14:00～17:00 販売は13時から

場所：大里公民館

参加：名（世話役会・事務局含む）

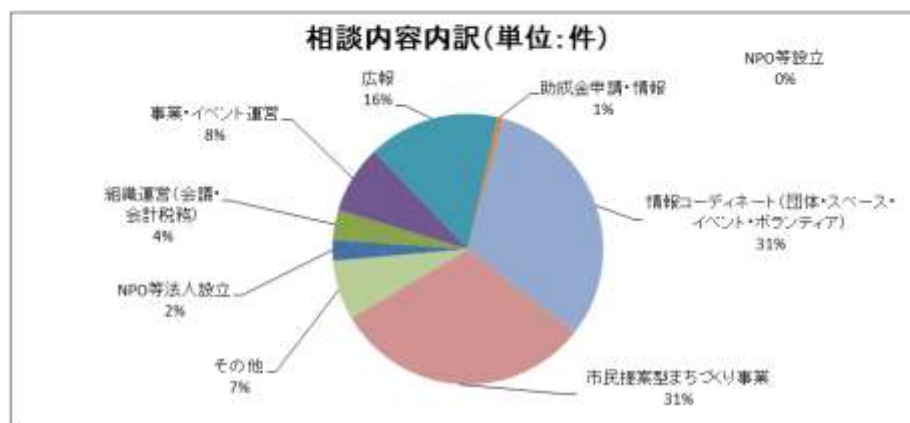
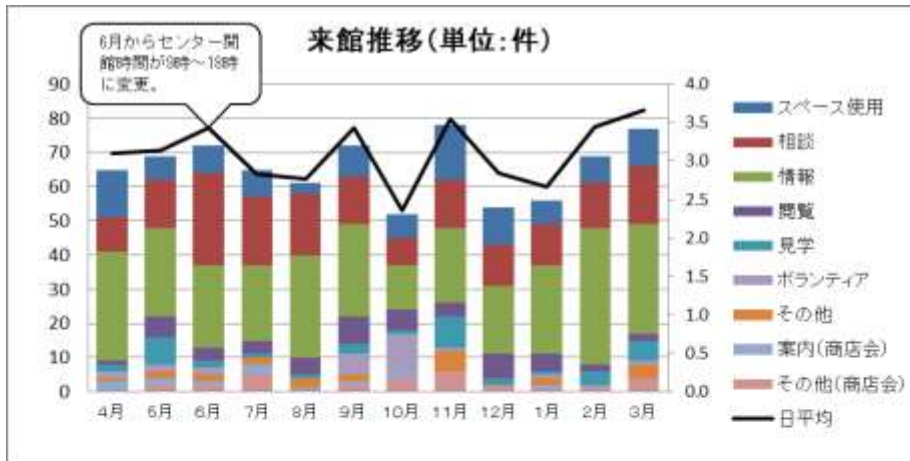
内容：大里あるもの発表・やる気宣言

野菜やパン菓子類の販売

足もみ体験・スライド上映など



2-4. 利用実態



○考 察

これまで10時から19時までとしていた開館時間を、6月より9時から18時までに変更した。これによって、朝一番の問合せに対応することが出来るなど効率が上がり、昨年度の業務件数を上回った。また、室内のレイアウトを変え、来所者の対応時間を定めることで業務のバランスがよくなってきた。

日曜日や祝日など中央市場周辺で開催される行事がある日は、日頃足を運ぶことがない市民にセンターを見学してもらえるように、これまで通り臨時開館とした。

年度前半は市民提案型まちづくり事業に関する内容が大半を占めた。事務局として3年目を迎えた今年度は審査会のプレゼンテーションを公開にしたところ、緊張するので反対という声、勉強になる上に自分たちの活動を知ってもらう機会にもなるという声など様々な反応があった。団体の声に耳を傾けながら着実に開かれた審査会へとつなげていく。

また、この事業に紐付けて、昨年度に引き続き募集説明会と併せて申請書書き方講座を、交付説明会と併せて会計講座を開催した。会計講座については、交付団体をはじめ市内外より50名が受講しニーズの高さを改めて感じた。

大里地区をモデルにした農村地域再生発見事業は2年目を迎え、一年に亘ってあるものがWSや講演会、年度末の発表会と区内外からの参加者があった。2回開催されたテーマ型座談会においても多くの参加者があり、大里をテーマにした地域円卓会議では新しい会議形式の取り組みに多くの参加者から注目を集めることとなった。

年度後半は、市役所での開催となったまちづくりカフェに係る業務が圧倒的に多く、参加団体の出展内容に関する相談や実行委員会等のミーティング、情報の収集や提供などに時間を割いた。団体や活動がつながることで協働の取り組みが生まれることが期待される。

今後、ますますセンター利用者は増えてくると考えられ、それに伴い人手が足りなくなってくる。業務のバランスを考え時間の使い方を工夫し対応していくが、併せて人員増についても要望していきたい。



2-5. フォトギャラリー2014

5月 所管課とワークショップ実施



5月 大里あるものさがしワークショップ



8月 市民提案型まちづくり事業交付団体による市長表敬



7月 市民提案型まちづくり事業 審査委員



市場三角ヤードにてちむちむ市場



10月 真栄里で市民提案型交付団体を取材



3月 一時避難場所協定締結式協力



2月 糸満まちづくりカフェ 2015で語っていいとも！増刊号



3月 大里あるものさがし成果発表会



糸満市市民活動支援センターの様子



第3章 収支概要

3. 2014年度 糸満市市民活動支援センター収支計算書

(2014年5月1日から2015年3月31日まで)

	経費区分	経費	内訳
	【経常収入】		
委託料		7,796,000	
	経常収入 計	7,796,000	
	【経常支出】		
人件費	給料	4,329,800	センター長・スタッフ2名
	法定福利費	658,576	社会保険・労働保険料
	人件費 計	4,988,376	
事業費	諸謝料	79,500	市民提案型まちづくり事業審査委員・講師謝金
	支払手数料	5,388	振込手数料
	福利厚生費	16,308	職員健康診断料
	水道光熱費	71,852	電気・水道料
	リース料	152,064	ノートPC×3・デジタルカメラ×1
	新聞図書費	39,805	新聞×1、NPO関連書籍
	通信運搬費	199,596	固定携帯電話料・プロバイダ料、ブログ使用料、郵送料
	備品消耗品費	156,957	事務・拠点整備用品
	印刷製本費	150,120	広報紙・まちづくりカフェちらし・横断幕印刷費
	旅費交通費	31,719	スタッフ交通費、駐車料金
	取材費	2,000	市民活動団体主催行事に係る参加費
	会議費	15,283	市民提案型審査会・講座・座談会など茶菓子代
	雑費	5,500	商店会費
	事業費 計	926,092	
農村地域再生 発見事業費	諸謝料	128,000	アドバイザー料、円卓会議司会・講師料
	備品消耗品費	50,422	ワークショップ消耗品
	旅費交通費	181,470	アドバイザー、円卓会議着席者旅費
	支払手数料	3,186	
	事業費 計	363,078	
	事業費 合計	6,277,546	人件費・事業費の合計
管理費		940,973	人件費・事業費合計の15%以内
消費税		577,481	管理費を含めた総事業費の8%
	合計	7,796,000	
	収支差額	0	

第4章 管理・運営について

4-1. 事業推進体制

○センター開館について

- －開館時間 10:00～19:00 (5月31日まで)
9:00～18:00 (6月1日から)
- －閉館日 日・月曜日・国民の祝日・慰霊の日・12月29日から1月3日
- －臨時開館 中央市場または市場周辺で行われる行事の日

○市民活動支援センター事業部

センターを管理運営するためのスタッフを配置した。また、センター行事のための短期アルバイトを配置し業務の効率化を図った。

- －常勤：宮道喜一、上原千加子、新垣仁美
- －短期アルバイト：2名

○ボランティアについて

市内まちづくり活動に関連する新聞の切り抜き作業やセンター行事準備に係る作業を行うなど、センターの運営に関わるボランティアの受け入れを行った。

○視察・研修受け入れについて

センター拠点の見学をはじめ、センター事業の管理運営に関する情報収集のための視察研修の受け入れを行った。



5月16日 三重県菰野町議会議員より特産物



3月10日 浦添市ボランティア連絡協議会役員

4-2. 市合同月例ミーティング&スタッフミーティング

毎月第1火曜日の午後を市合同月例ミーティング、毎週火曜日の午前を定例スタッフミーティングと位置づけ、センター事業に関わる職員が集まり、情報の共有と事業の確認および利用者対応について話し合う場を持った。また、内容によっては定例日以外にも個別にミーティングを行い、業務の円滑化を図った。

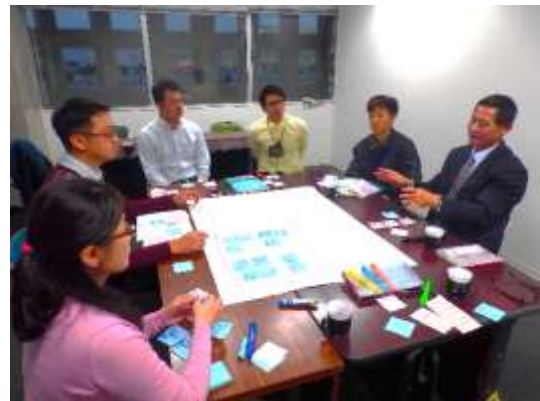
市合同ミーティングにおいては、ビジョンづくりのためのワークショップも合わせて行うなど、より相互理解を得られる機会を設けた。スタッフミーティングにおいては、相談対応中の事例を挙げ、予測される内容も含めて、その都度、研修を行い、相談対応力の向上に努めた。

他にも、まちなか研究所わくわく主催の沖縄地域社会ビジョン大学院2014を受講し、内容をまとめ当センターブログにて掲載した。

ー市合同月例ミーティング	原則毎月第1火曜日の午後	計12回
ビジョンワークショップ	5月と1月に実施	
ースタッフミーティング	原則毎週火曜日の午前	計48回
他、スタッフ研修	必要に応じて実施	計10回
沖縄地域社会ビジョン大学院2014受講		計2回



まちセンのこれまで まちセンのこれから



1月6日 ビジョンづくりワークショップ



糸満市市民活動支援センター事業

2014 年度事業報告書

2015 年 3 月

発 行：糸満市市民活動支援センター

（管理・運営 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく）

〒901-0361 糸満市字糸満 989 番地の 83 糸満市中央市場 C 棟 69

Tel & Fax : 098-992-5828

E-mail : itoman.saposen@gmail.com

Blog : <http://itomansaposen.ti-da.net/>